

## 平成27年度 第2回能美市総合教育会議 議事録

I 日 時 平成27年8月21日(金)  
開会 午前10時00分 閉会 11時30分

II 場 所 能美市役所 3階 委員会室

### III 出席者

#### 【構成員】

市 長	酒井 悌次郎
教育委員長	南 俊博
教育委員長職務代理	亀田 美穂
教育委員	畑中 美千代
教育委員	徳野 伸彦
教育長	中嶋 敏一

#### 【事務局】

総務部長、総務部次長、総務課担当課長、総務課主任

#### 【教育委員会事務局】

管理局長、管理局次長、学校教育課長、生涯学習課長、生涯学習課担当課長、  
スポーツ課長

#### 【司会進行】

総務部次長

### IV 内容

- 1 開会
- 2 市長挨拶

(酒井市長)

本日は第2回目の総合教育会議でございます。前回は5月に第1回目の会議を開催させていただきました。能美市の教育体系のあり方、教育大綱についてご説明いただきまして、皆さんにご承認いただきました。今日は、第2回目の会議というこ

とで、ひとつよろしくお願ひしたいと思ひます。

さて、いろいろな課題があるようでございまして、後程、事務局から説明がありますが、本日の協議事項は、今後の学力向上のための施策の展開、それから学力状況について現状の報告があり、それを受けて今後のあり方についていろいろとご協議いただくことになると思ひます。

従来、行政の視察で他市議員の皆様が、私に能美市の一番の印象として「能美市の学校等の教育施設は、耐震整備など立派に整備されていて本当に羨ましい。」と語られます。「これだけ整備するのに何か仕掛けがあるのですか。」というような質問もあります。「実は、能美市は小松基地周辺所在地ということで、防音対策として防衛庁から補助を受けて校舎の防音工事をしており、空調等も完備しております。」と答えています。学校の環境設備やクラブ活動の助成には多額の予算を確保し、教育環境については、他市と比べて遜色はないと思っております。

なぜこのようなことを申し上げるかということ、教育環境の整備には、ハード・ソフトの両面で対応しているわけですが、全国学力・学習状況調査の結果、最近の小・中学生の学力が、県下でも最低のランクに落ち込んでいると聞いて、残念に思ひ大変ショックを受けています。

なぜこのような状況になっているのか、原因をしっかりと究明して、今後の学力向上に繋がる施策の展開を教育委員会にお願ひしたく、執行部の方もそれに対応していきたい。大きな課題を突き付けられているような思ひでおります。

そういうことで、大変厳しい状況にあるということだけは、認識しておりますが、皆様にも今の状況を十分に踏まえていただき、行政のあり方について、ご指導いただければと思ひますので、よろしくお願ひ致します。以上でございます。

### 3 協議事項

#### (1) 教育施策の大綱と具体的な学力向上施策

(中嶋教育長)

市長のご挨拶にもありましたが、われわれ教育委員会としまして教育施策の大綱に基づいて、学校教育の充実に向けた主要施策にあります学力向上施策の取り組み状況の報告と、それに加えて全国学力・学習状況調査から見えてきた課題についてご説明いたします。

この課題につきましては、今年度より新たな取り組みとして全国学力・学習状況調査の結果を公表する方向で、学力向上策に繋げていけないかと考えております。また、学力向上の更なる推進施策として、新たな提案もさせていただきますので、十分に協議いただいて学力向上に繋げていきたいと思っています。

ちょうど今日のニュースで気になりました大阪の中学一年生の事件とも絡みまして、いじめや不登校の問題、特に夜遊びの問題も含めて、次年度の課題についても考えていけないと思っておりますので、一つよろしくお願い致します。なお、詳細につきましては教育委員会事務局から説明いたします。

(事務局)

配布資料の内容について教育委員会事務局長、学校教育課長が説明し、構成員に意見を求めた。

(徳野委員)

全国学力・学習状況調査の結果について、県平均と能美市の現状の位置づけはわかるのですが、過去はどういう状況だったのでしょうか。

(学校教育課長)

昨年、平成26年度は厳しい結果となったことは確かで、経年で比較するとここ7、8年は県平均を中学校においては上回っている状況でした。ただ、小学校は県平均並みか同程度という状況でしたので、中学校で盛り返していたというのが実情です。ただ、昨年度は例年とは異なり、今年度も予想では結果がよくありません。

(徳野委員)

それ以前は、今ぐらいの状況がずっと続いていたのでしょうか。

(学校教育課長)

平成19年からの経年比較しかないのですが、中学校ではやや上回るといった学年や、上回るといふところがあります。やや上回る程度のところで推移している状況です。小学校は県平均と同程度のレベルでした。

(亀田委員)

以前と比較して、あまり変わっていないということで、昨年があまりにも悪かったということでしょうか。

(学校教育課長)

石川県が毎年冊子を発行して、全国学力・学習調査の結果を公表していますが、市町別の成績を公表したのは昨年が初めてで、その年が能美市の結果が一番悪い年であったということです。今年度は8月25日に発表ですので、現状はまだわかっていないという状況です。

(亀田委員)

説明でいろいろな施策を学校や地域に対して展開していくというのがよくわかりました。全国学力・学習状況調査の結果を公表することについて、結果が上向きの方が、地域の人にも安心して子供たちが勉強していることが見えてくるし、保護者も頑張れるという気持ちにもなれますが、最終的にはどうでしょうか。昨年度の結果については、家庭環境における貧困の格差が障害となっているのではないかと思います。生活が困難な状況にある子供たちをどう支えていくのか一番の課題であります。

最近の大阪の中学生の事件もありますが、地域の人々や退職教員で、チーム学校という総合的な学力向上事業を立ち上げることは、能美市が一丸となって取り組む姿勢が見えてよいと思います。現任の先生方は、毎日の授業を目一杯やっておいでるので、放課後対策のボランティアを充実したものにできたらよいと思います。

(中嶋教育長)

私が就任して一年半になりますが、私なりの学力の分析というのをしていますのですけれど、能美市というのは、先程、市長が言われたとおり充実した教育環境を提供してきました。どちらかと言えば先端を走っていた教育だと思います。なぜこういう風に学力が下がってきたように見えるかということ、他市町が能美市のやっていることを導入し始めたということで、他市町が力をつけてきたと分析しています。そうすると、それをまた上回ることをしていかなければならないのではないかと考えております。

(南委員長)

学校懇談会での話ですが、そこで各学校ともすごく意欲的にいろいろなことに取り組んでいて、確かに成績はそうですけれども、先生方は手一杯だなという感じがしました。あと、どうしたら学力が向上するかということを考えますと、やはり本人に勉強してもらわないといけないのですが、学校の方は支援を必要とする生徒も増えて

いるので、これを一つ大きな問題として解決しなければならないと思います。あとは家庭でも地域でもいいですが、学内外で学習をするという対策を何かやるのが今一番効果的ではないかと、私自身は思いながら懇談を聞いていました。

その中で一つ心配があるのは、携帯電話やスマートフォンを長時間見ていると非常に危険であるということを家庭でも認知していただく必要があるのではないかと。デジタル認知症という言葉も出てきている。この間の大阪の事件もずいぶん夜遅くまでスマートフォンを使っていたようです。特に影響を受けやすい小さい子供は、学習する習慣、又は規律のある生活が学力向上に重要であると家庭でも認識していただく政策も必要ではないかと考えております。

(徳野委員)

全国学力・学習状況調査の結果の公表の件ですが、新聞等々で県内の教育委員会全てが公表しないというのであれば、公表しなくてもよいかもしれませんが、いくつかの市町で公表しているところがあるということになりますと、自然な流れとして、最終的に能美市はなぜ公表しないのかという声は上がってくると思います。

平成19年からの経年の経緯から、極端に何かここ数年間で悪くなっているわけではないのですが、昨年度の学年だけなのか、それとも今後こういう状況に陥ることになってくると推測されるのであれば、教員の育成も踏まえて、公表すべきではないかと思えます。下回る、同程度、やや下回るなどの表現、この下に5%などの数字だけを公表すると、言葉だけが独り歩きをしてしまうこともありますので、内容については詳細な文章をつけて公表することにより、地域が一貫して学力向上に努めるというような雰囲気をつくるためにもいいのではないかと思えます。

(南委員長)

全国学力・学習状況調査の結果の公表の件ですが、個人的には、全国の傾向でもありますし、公表した方がよいと考えています。結果を公表することにより、学校の先生方にもひと工夫していただけるかもしれませんし、地域の人たちも、それを見て対策の必要性を感じていただけるのではないかと思えます。

詳細な内容を公表することは、今の段階では支障がありますが、ある程度の状況については、公表した方がいいのではないかと思えます。

(亀田委員)

昨年度に引き続き、今年度も全国学力・学習状況調査の結果が悪いと、暗い感じ

がしてくるのですが、ハード・ソフトの両面において、能美市の子供たちは本当に素晴らしい教育環境に恵まれ、育てられていると思います。

現在、世界で活躍するスポーツ選手がたくさんいる中で、石川県の中でも、能美市は世界に羽ばたく子供たちが多く育っていると思います。それは、どうしてなのかと他から注目を集めているところもあり、子育ての期間だけでも能美市で生活したいという人たちの声もよく聞こえてきます。

石川県は北陸三県の中でも大学進学率がトップクラスであり、福井県は基礎学力の面で全国一位であると聞いています。小・中学校の学力もそうですが、そこから高校、大学、社会人となるまで、教育の結果はすぐに表れないと思います。能美市には、最終的に実力を伸ばす力があるように感じます。そういう能美市の良いところを探って伸ばしていただきたいと思います。

(畑中委員)

市内の学校へ懇談に行きますと、教員の先生方はいろいろな方法で、目一杯どうにか学力をアップしようと努力されているのが伝わってきますが、先生方は忙しすぎて子供たちと関わる時間が少ないと感じます。例えば、学校の事務一つ取り上げても、資料作りに費やす時間がすごく多いような気がします。

全国学力・学習状況調査の結果を公表することで、能美市全体の学力が上がっていけばいいですが、市内の学校同士で比較して良い学校、悪い学校が知れ渡るようになるのは寂しい気がします。

それと、退職された教員の先生方にアドバイザーとなってもらうことは、すごくよいことだと思いますが、ボランティアというのは長く続かないと思うので、報酬等の処遇面で支えてあげられたら、持続的にできると思いますが、いかがでしょうか。

(徳野委員)

本来は子供のためには、その小学校なら小学校、その中学校なら中学校の先生が、いじめや不登校の問題も含め、発展すれば家庭の問題まで、生徒に関わるのが一番理想的だと思います。現代の先生は、仕事の量が多くなり子供たちと向き合う時間が確保できないのが現状です。本当に必要な仕事以外の時間を省いて、子供たちと向き合う時間を確保することができれば、それが一番よいと思いますので畑中委員の意見に同感です。

アドバイザーの方、退職された先生方は、若手の先生方と比べると、非常に経験も豊富なので頼ってしまいがちですが、若手の教員の育成を考えますと、放課後の学習や家庭の問題はおまかせするというのではなくて、現職の先生方が、使命感をもって生徒と関わっていくことが本来の姿でありますので、上手く現職の先生も中に交えて活動していただければありがたいです。

(南委員)

ボランティアを依頼するには、あまり負担に感じないような形でお願いしないと継続できないという一面もあります。しかし、報酬という形をとる場合にも金額に制限がありますし、そこは非常に難しいところだと思います。やはり、そういう心ある人を増やすということしかないのではないかと思います。

それと若手教員の育成の件ですが、県が主体となって研修など人材育成を行っているのではないのでしょうか。

(学校教育課長)

若手教員だけではなく、研修は県教育委員会が主たるものとして実施しています。初任者の研修は数多くありますが、2年目、3年目と年数の経過とともに少なくなります。どちらかと言えば、授業のみに関わる内容となりますので、それ以外の部分の保護者待遇や児童への対応となると、この制度が有効ではないかと思います。若手教員の育成は、授業力だけではないので、そういった形で進めていきたいと思っています。

退職教員のボランティアについて、今の段階では完全なボランティアではなく、ある程度の報酬を支給する形で進めていきたいと思っています。

(畑中委員)

テレビゲームの時間は、各家庭でばらつきがありますが、能美市で制限時間が示されているものなのか。それは各家庭に任すしかないものなのか。家庭学習の時間を増やすことに絡めて、ゲームの時間を取り締まることは可能でしょうか。

(学校教育課長)

家庭の中で、児童生徒と保護者がルールを決めると言うのは当然です。先程の南委員長からデジタル認知症という話もありましたが、既に科学的に証明されていて、そのあたりは市PTA連合会、校長会、教頭会でもインターネットの児童生徒の利用について協議しています。そのあたりを融合させながら家庭教育でのあり方を示

していく必要がありますが、そういった説明会に参加されているのは一部の方々なので、そこが大きな課題となっています。

乳幼児期の段階から、保健師と連携して対応していく必要があると思いますので、教育と福祉が連携して取り組んでいきたいと考えています。

(亀田委員)

自身の子育ての時もそうでしたが、聞いていてほしい方が出席していないということで、PTAでも問題になったことがあります。それが今でも続いている感じですか。

先程、先生と生徒の触れ合いの時間が短いのではないかというご意見がありました。先生は何とか学力をつけたいということで、休み時間を利用して漢字、計算、そして読書をしたり、学校でたくさん教えないといけないといったように、子供たちに対して詰込み型の教育になりがちですが、発想を転換して、ゆとりを持つことが大事ではないかと思います。これからの指導要領には、知識の活用力を高めることが大切であると言われていています。

子供たちが、様々な知識、社会とどう関わるかという主体性を身に付けていくことが大切です。そういうところから先生方にもゆとりができて、子供たちにとって楽しい授業になれば、子供たちの知識がどんどん増えていきます。そういった方向で、先生の指導力をもっと高めていただきたいと思います。

(畑中委員)

今後の課題は、保護者が会合などに出来る限り参加できるようにすることではないでしょうか。参加しない人、出来ない人を参加できるようにする。参加できない原因がたくさんあります。仕事が忙しくて参加できないとか。全然子供に関心がないということはないと思いますが。

(亀田委員)

昔と変わってきているのは、入学式、卒業式に夫婦で出席することが当たり前になっています。文化祭、コンクールの時でも家族で応援に行きます。

なぜかはわかりませんが、学校の授業参観には行きますが、学級懇談になると誰も参加したがるが、役員しか残らないということを知りました。個人懇談には行くけれども、自分の意見を言う場面では、家庭のことをあまり喋りたがらないので、学級懇談会の運営がすごく難しいことがあると、先生方や父兄の役員の方からも聞



きました。その件についてはどうでしょうか。

(学校教育課長)

学級懇談会というのは、平日の午後3時頃からなので、参加しづらい時間帯ではあるのだらうと思います。自分が中学3年生の担任をしていたとき、保護者から夜に毎月学級懇談会しましょうということになり、大変でしたが4月から3月まで毎月懇談会をしました。そうすると参加状況もよくなり発言も増えました。それぐらいいないと保護者は自分の意見を言えないと思いました。教員の多忙化の問題もあるので、難しいところではありますが、時間帯はやはり関係があると思います。

(南委員長)

地域の力というのが、あまり動いていないように感じます。ある程度は動いているのかもしれませんが、家庭の方が今の様な状態の時に子供が参加できるような、例えば食事をするとか、そういうのを一緒にやりましょうとか、そういった地域の支援も出てくるのではないのでしょうか。

全体的な力というのは、学校で習う知識もそうですが、社会知や自然知といったものもある。その中で学んだものが後から生きてくる。先程ありました、能美市の人は、後から伸びてくると言った話もありましたが、そういったことが影響しているのではないかと思います。

一つの対策として、社会活動に参加したり自然の中で親しむことによって、小中学校の学力では、すぐには現れないかもしれませんが、それ以降伸びる力を養う。そういう方面でアプローチするのも、全体的な学力向上に繋がるのではないのでしょうか。

(亀田委員)

毎年、夏休みに子供生活講習会を開催して小学生を対象に自分たちで調理したり、倫理感を養うために読書をしたりしています。今年は整理整頓を目標にして、洗濯物をきちんと畳んで引き出しに片付けるといったことを勉強しました。子供たちは小学校一年生から、包丁を持って野菜を切ってピラフやソーセージを作りました。家に帰ってお母さんに教えるということで、一つ覚えるとそれが継続していくようです。学校の家庭科で調理実習がなくなった分、家事ができなくなっているのので部屋やタンスの中をきれいにするとか、靴を洗うとか、何かそういったところで自信をもたせてやるのが大切だと思います。夏休みに調理実習の機会を設け

て、子供たちに自由に作らせてあげることができればよいと思います。

(中嶋教育長)

今日は皆様にいろいろなご意見をいただきまして、全国学力・学習状況調査の結果については、公表するという方向性が共有されたと感じましたので、そのような形で進んでいきたいと思っています。また、今後の支援策についても、様々なよいヒントを頂きました。そのヒントを基に市長部局と連携しながら、提案していきたいと思っております。

(酒井市長)

全国学力・学習状況調査の結果の公表はそれでいいと思うが、結果を少しオブラートに包んでモディファイされているのは、市民は本当の実態が分からないのではないかと。結果をそのまま公表しては駄目なのか。少し表現がマイルドすぎるのではないかと。結果を見ると下回るものは一つもないが本当になかったのか。

(学校教育課長)

県が公表した昨年度の結果はその通りです。

(酒井市長)

それならばよいが、その辺りが少し気に掛かる。ただ、保護者にはしっかりと機会を設けて結果を伝えていかなければならない。市内の各学校でも実施すると言っていたが、その点について説明をお願いします。

(学校教育課長)

能美市が公表した後に各学校でも同じ様式で公表します。公表の方法を今後どのようにしていくか検討していく必要がありますが、ホームページ、学校だよりに掲載、保護者説明会や地域説明会を実施することを検討していく必要があります。

(酒井市長)

今ほど教育委員会事務局でもこのような形でということで、出来るだけ差し支えないように市民に公表し、ある程度、現状を伝えていくということでよいと思いますが、あまりいい格好ばかりしていてもいけない。後でもっともっと傷が深くなってから、なんであの時言わなかったと言われぬように、しっかりと対応をして教育力の向上をしていく努力が必要であり、大変難しい問題だと思う。だから、そのあたりは焦慮感をもちますが、トータルとしてみれば、いたしかたないと思いません。問題を先送りすることの無いように努力して行ってほしいですし、あとの支援

策についても、皆様からご意見が出ましたけど、本当にいろいろな難しい問題があります。

一番の心配は、この間の大阪の事件のように、夜中に子供が出歩いているのに保護者が知らん顔しているような家庭が増えてきている。保護者には、しっかりと我が子を見ていてほしい。先生方も大変だと思いますが、その辺はどうしていか本当に難しい問題があると思います。もうひとつは、やはり経済力の格差がこういう問題に繋がっているということで対応していかなければならない。

最後に南教育委員長が閉会の挨拶を行った。

(南委員長)

なかなか教育の問題は難しい面がありまして、いろんな施策をしても即効ということがないので、何年間もかけてということになります。確かに市長がおっしゃられるように、一つ誤ってしまうと気がついたときにはどうにもならなくなるといった可能性もありますので、この方向性でいいと思いますが、常に考慮しながら動かないといけなのではないかと思います。教員の先生方は本当にいろんなことを考えて頑張っているというのは、本当に懇談させていただいて分かりましたし、地域力を上手く使って、それから家庭の方もいろいろと問題点を理解していただくというこの二点が、これから一番大きな力になっていくのではないかなという気がします。これから地域の方にも、このことを理解していただかなければならないという状況なのかと話を聞いておりました。まずは、施策の方向性はこれでいいと思いますので、大変だと思いますが、努力いただきますようよろしくお願いいたします。

## 5 閉 会

11時30分終了